

上村 昇

2大B 弦とピアノの美しい調べ

退任記念コンサート

2018 **6.8** **金**

入場無料
申込不要・当日先着450名
開場18:30 / 開演19:00

NOBORU
KAMIMURA
CELLO
CONCERT

出演

ヴァイオリン 四方 恭子 (京都市立芸術大学音楽学部教授)
ヴィオラ 豊嶋 泰嗣 (京都市立芸術大学音楽学部准教授)
チェロ 上村 昇 (京都市立芸術大学名誉教授)
ピアノ 上野 真 (京都市立芸術大学音楽学部教授)

演奏曲目

J.S. バッハ：無伴奏チェロ組曲第5番ハ短調 BWV 1011
J.S. Bach: Suite for Violoncello solo No.5 in C minor BWV 1011
J. ブラームス：ピアノ四重奏曲第3番ハ短調 作品60
J. Brahms: Piano Quartet No.3 in C minor Op.60

京都府立府民ホール
ALTI “アルティ”
ART LIVE THEATER INTERNATIONAL
京都市上京区烏丸通一条下る龍前町 590-1
TEL 075-441-1414

● 地下鉄烏丸線「今出川」駅下車、6番出口を南へ徒歩5分
◆ 未就学児童の入場はご遠慮ください。◆ 駐車場はありません。車でのご来場はご遠慮ください。

問合せ先

京都市立芸術大学 事務局連携推進課 (事業推進担当)
TEL 075-334-2204 (平日8:30~17:15)
URL <http://www.kcua.ac.jp/>



我が国を代表するチェリストとして活躍し、また京都市立芸術大学音楽学部の教員として長きにわたりチェロの指導に携わった上村昇教授の退任を記念してコンサートを開催いたします。皆様の御来場をお待ちしております。

Profile



上村 昇 (チェロ)
KAMIMURA Noboru

1975年京都市立芸術大学卒業。黒沼俊夫氏に師事。76年第23回文化放送音楽賞受賞。77年第46回日本音楽コンクール第1位。海外派遣コンクール松下賞受賞。79年京都・東京にてデビュー・リサイタルを開く。第6回カサド国際チェロ・コンクール優勝。ヨーロッパ各地で活躍。83年第1回京都府文化賞新人賞受賞。86年東京・京都にてパッサン無伴奏チェロ組曲全曲演奏会を開催。91年ノイマン指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団と共演。93年第5回飛騨古川町音楽大賞奨励賞受賞。プラハ交響楽団と共演。98年ABC国際音楽賞受賞。2001年第19回京都府文化賞功労賞受賞。ソリストとして、また室内楽の分野においても国内外の著名なアーティストたちからの信頼も厚い。98年には京都府民ホール・アルティの開館10周年を記念して、ヴァイオリン豊嶋泰嗣・矢部達哉・ヴィオラ川本嘉子と京都アルティ弦楽四重奏団を結成。以来定期公演を行い、2008年第28回音楽クリティック・クラブ賞、京都府新世紀かがやき交流賞を受賞している。京都市立芸術大学名誉教授、桐朋学園大学特任教授、大阪音楽大学特任教授、京都市文化功労者。



四方 恭子 (ヴァイオリン)
SHIKATA Kyoko

神戸生まれ。東京芸術大学在学中に、第47回 NHK毎日音楽コンクール入選。第1回霧島国際音楽祭に東京ブラスカルテットとして参加し霧島国際音楽祭賞を受賞する。第15回民室内楽コンクール第2位及び斉藤秀雄賞受賞。ドイツ国立フライブルク音楽大学に留学し、ヴォルフガング・マルシュナー氏に師事。師のアシスタントも務める。1982年シュポア国際ヴァイオリンコンクール第1位。1990年から2003年までケルン放送交響楽団第1コンサートミストレスとして活躍した。同団とバルトック・ヴァイオリン協奏曲第1番、第2番他を録音、その他、フランクフルト放送交響楽団、ソフィア・フィル、スロヴァキア・フィル、NHK交響楽団、東京都交響楽団、札幌交響楽団、京都市交響楽団等とソリストとして共演。1998年には、既にCDにもなったイザイ・無伴奏ヴァイオリンソナタ全曲演奏会をケルンで行い絶賛を博す。霧島国際音楽祭、サイトウキネンフェスティバル他、多くの音楽祭に参加。「アフニス夏の音楽祭」では音楽監督を務めている。2005年より兵庫芸術文化センター管弦楽団コンサートマスター、2009年9月より東京都交響楽団ソロ・コンサートマスター。2009年11月兵庫県文化賞を受賞。現在、京都市立芸術大学音楽学部教授。



豊嶋 泰嗣 (ヴィオラ)
TOYOSHIMA Yasushi

桐朋学園で江藤俊哉、アンジェラの両氏に師事。1986年、大学卒業と同時に新日本フィルのコンサートマスターに就任。その後もサイトウ・キネン・オーケストラ等でコンサートマスターを務めている。ソリストとしては、ベルリン放響、モスクワ・ソロイスト、ロンドン・モーツァルト管等、国内外のオーケストラとの共演。室内楽奏者としては、ハレー・ストリング・カルテットを結成し、2000年までカザルスホールのレジデントカルテットを務めた。現在京都アルティ弦楽四重奏団のメンバーとして活躍。スターン、ヨーヨー・マ、アルゲリッチ、ズッカーマン、マイスキー等との共演を重ねている。現在、新日本フィルソロ・コンサートマスター、兵庫県立芸術文化センター管コンサートマスター、九州交響楽団桂冠コンサートマスター、チェンバー・ソロイスト佐世保音楽監督。1991年村松賞、第1回出光音楽賞、1992年芸術選奨文部大臣新人賞受賞。京都市立芸術大学音楽学部准教授。1719年製アントニオ・ストラディバリウスを使用。



上野 真 (ピアノ)
UENO Makoto

16歳で単身渡米し、カーティス音楽院にて、J.ボレット、G.グラフマン、その後ザルツブルク・モーツァルテウムにて H.ライグラー氏に師事。メリーランド、ベークンホルン・エンパイア、ジュネーヴ、オルレアン20世紀、リヒテル等の国際コンクールで入賞。世界15か国で演奏を行う。近年は19世紀から20世紀初頭、作曲家存命時に近い時期に作られた歴史的な楽器によるレコーディングに力を入れている。オクタヴィア・レコードと若林工房から1925年製ニューヨーク・スタインウェイを使用した「ラフマニノフとドビュッシー」(2013)、1852年製エラールを使用したリスト作品集「巡礼の年第2巻とヴェネツィアとナポリ」(2014)、1906年製のペヒシュタインを使用した、ワーグナー=リスト、スクリャーピン、シェーンベルク、ラヴェルのアルバム「夜のガスパール」(2016)、1927年製のエラールを演奏したドビュッシーとラヴェルのアルバム「月の光」(2017)等をリリース。2018年には1846年製シュトライトライヒャーや1903年製ベーゼンドルファーを用いてのブラスム作品集を発表予定。また Naxos からモシェレス、チェルニー、ベートーヴェン、ウェーバーの室内楽作品のレコーディング・プロジェクトも並行して進行させている。現在世界各地でマスタークラスやコンクール審査の活動を行なっている。京都市立芸術大学音楽学部教授。名古屋音楽大学客員教授。